

③ 支川（<sup>ほうきがわ</sup> 箒川, <sup>きびがわ</sup> 蛇尾川）

箒川（支川）は、<sup>ひるが</sup> 日留賀岳（那須塩原市）南斜面に源を發し、蛇尾川を合わせて右岸から那珂川に流入する延長 48km、流域面積 528km<sup>2</sup>の河川である。

箒川の源流部ではニッコウイワナが生息し、細流や水路でホトケドジョウが見られる。また、ほとんど生態がわかっていない珍しいミツバヤツメも見つかっている。矢板市山田地区の箒川の岩壁（屏風岩と金和崎岩）には、チョウゲンボウの繁殖地があり、栃木県の天然記念物に指定されている。

箒川合流点の水田地帯から山麓までは、両生類ではニホンアカガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、<sup>はちゅう</sup> 爬虫類ではシマヘビが広く分布する。哺乳類では、トウホクノウサギ、ホンDOIタチ、ホンドキツネ、タヌキなどが流域に広く分布し、山地～平地ではキクガシラコウモリが生息している。

箒川や那珂川に生息していたヒメシロチョウは、平成 14 年（2002）に大田原市（旧湯津上村）で再確認されるまで、栃木県ではほぼ絶滅と考えられていた。付近の小水域にはマダラヤンマが確認されている。箒川やその支流では、ツヤドロムシ、ミゾツヤドロムシ、ツヤヒメドロムシ、ツヤナガアシドロムシなどのヒメドロムシ科の水生甲虫類が生息している。



箒川中流部（大田原市）  
（写真：磯 忍氏，平成 17 年 9 月）



ミツバヤツメ（ヤツメウナギ科）  
（写真：なかがわ水遊園）



ニッコウイワナ（サケ科）  
（写真：なかがわ水遊園）



キクガシラコウモリ（コウモリ科）  
（写真：㈱建設環境研究所）

図 4-23 箒川の生物



ヒメシロチョウ（シロチョウ科）  
（写真：栃木県立博物館）



マダラヤンマ（ヤンマ科）  
（写真：染谷 保氏）

図 4-24 箒川の昆虫

蛇尾川は、大佐飛山(那須塩原市)に源を発し、那須野原扇状地の中央部を南東に流れる。扇状地に出てまもなく厚い砂礫の上を流れる蛇尾川は、地下浸透が著しく、ふだんは那須塩原市折戸付近で伏流するため、水無川になっている。しかし、台風や雨の多い時期は地表水が流れることもあり、水が流れない区間は固定していない。扇端で湧出した水は、清冽である。那須塩原市の乃木神社近くに湧出する乃木清水には、ハイキンポウゲ、フトヒルムシロ、アイヌワサビ、ノギカワモズクなどが生育している。

礫河原には、カワラニガナ、カワラハハコ、カワラヨモギなどの河原植物が見られる。



蛇尾川の墓沼付近では、現在は希少な種となっているミヤマシジミが生息している。ミヤマシジミは、中流河川の河原環境に普通見られる種であるが、那珂川流域では上流域において記録された点で注目に値する。また、蛇尾川の湧水付近では、アカツヤドロムシ、ツマキレオナガミズスマシ、キボシケシゲンゴロウなどの全国的に希少な水生甲虫類が生息する。



蛇尾川の上流部（那須塩原市）  
（写真：磯 忍氏，平成 17 年 7 月）



水が枯れた蛇尾川の中流部（那須塩原市）  
（写真：磯 忍氏，平成 17 年 11 月）

図 4-25 蛇尾川の姿



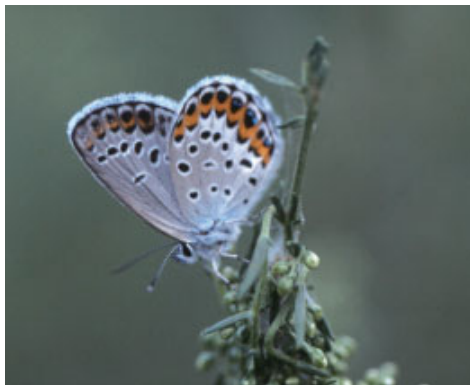
アカツヤドロムシ  
(ヒメドロムシ科)  
(写真：佐藤 光一氏)



キボシケシゲンゴロウ  
(ゲンゴロウ科)  
(写真：栃木県立博物館)



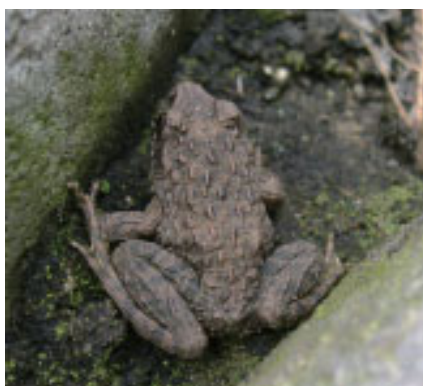
ツマキレオナガミズスマシ\*  
(ミズスマシ科)  
(写真：栃木県立博物館)



ミヤマシジミ (シジミチョウ科)  
(写真：榎日水コン)



カワラヨモギ (キク科)



ツチガエル (アカガエル科)



清潔な湧水に生育する水生植物

図 4-26 蛇尾川の生物

\*ツマキレオナガミズスマシ (ミズスマシ科)

体長 6.0~7.2mm。河川中流域の伏流水からの湧水がある場所に生息する。分布は局所的である。栃木県内では大田原市の蛇尾川が唯一の生息地である。環境が悪化し絶滅の危機にある。